

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和元年 1 2 月 9 日掲載

1 年 1 組 前川幸治郎

僕はハンドボール女子世界選手権を初めて見て、とても心が動かされました。その中で特に、選手のみなさんはポストを使うプレーがすごいと感じました。自分達は決まったプレーでしかポストを使うことができませんが、世界選手権に出る人たちは視野外からアイコンタクトでパスを通すことができていました。これは日頃からの練習で意思疎通を行い、何度も練習をくり返してきたものだと思います。僕もできないプレーができるように、何度もくり返して練習していきたいです。

そして、日本のチームは体格が他のチームに比べて、一回り小さかったのですが、オフェンスではスピード感のあるボール回しとフェイントで得点につなげていたり、ディフェンスでは大きい相手にも向かっていく強い気持ちがあったり、体の大きな選手に対して負けていませんでした。僕たちも体が小さいので、日本のような攻撃やディフェンスを心がけていきたいです。

また、出場している選手が楽しそうにハンドボールをやっているのも印象的でした。体を張って守ったり、体の大きい選手にも立ち向かっていくその勇氣に、ハンドボールを見に来た人たちが魅了され、熊本全体が1つになったと思いました。日本はこれからも強いチームと対戦すると思いますが、アルゼンチン戦のように、熊本や日本全国に感動を与えてほしいです。